

## アフリカ装飾大陸（ティンガティンガに）

ティンガティンガが描いた ふりむいた駝鳥

第二世代のムテコの 豹と鳥たち

第三世代のアリイスの 鳥づくしの楽園

アフリカ暗黒大陸は

植民地支配の限りを尽くされて

直線で切り取られた国境の大陸地図

西欧の一神教と遠近法に貫かれて

絵画の重みを見せつけられて――

それでもティンガティンガは抜けだした

緑の大地黄色の空 そこに首を傾げて振り返る

灰青色の黒足の駝鳥 うまくもなんともない

自然なしぐさ を彼は一瞬で捉えた

豹の顔が粹であり 鳥の親子も見事なバランス

無数の鳥が木に宿り 羽にも無数の目玉の模様

若冲顔負けの ひたすら描き込んだムテコ

その中にも緑と黄色がベースにはあり

第三世代のアリイスの このテクニクはなんだろう

ごちゃごちゃ鳥が渦巻いて 孔雀が羽を広げて円舞を尽くして

赤の扇 黄色の扇 青の扇 紫扇 赤の扇

その間に鳥たちがいて 目玉の数が百を越え

それに蝶も加勢して……その背景は緑のベース

その中に黄色の孔雀と

蝶の乱舞と一匹の愛らしい小動物（それも鳥？）

ここまでできた 緑と黄色の命を込めて

アフリカ大陸に開かれた

絵画の技法は進み

暗黒世界と帝国支配

そのフォルムとカラーを乗り超えて

ここまで自由を得た驚き

第三世代の画家たちの

命の遊びを見せられたのだ

ムボチヨゴの孔雀の弾けた命の輝きと

イツサの緑のカエルと孔雀

その潤いのあるジャングルの日常と

タビティのあの情感を鎮めた二羽の孔雀

予約済みも無視して売られた現地の感覚？

しかしだ このアリスの鳥たちの競演の

この技術遊びの凄さはどうだ！

果てしのない暑さにのさばられた 植民地支配の名残りの

独立の後の無法の 民族同士の紛争の 治安どころではない

飢えとマラリアで多くの人が死に 紛争の果てに殺されて

揚げ句の果てに都市流通の利便さゆえのエボラだ

それでも膨らんでいく文化の香り……

そして何十年後には

もう私はこの世にいないだろうが

きみたちアフリカの こんなにまで伸びやかで

やりたい放題の命の迸りが

今や溢れはじめているのだ

アフリカ装飾大陸 万歳！

## ★ティンガティンガ

一九六〇年代に、アフリカ、タンザニアのダルエッサラームでエドワード・サイディ・ティンガティンガが始めたポップアート。主に動物や植物などの自然が描かれる。メソナイトと呼ばれる建築資材にエナメルペンキで描かれたが、その素朴さから評価を得て行く。創始者は四〇歳の時、警官に撃たれて不慮の死を遂げるが、弟子たちによって受け継がれ広められ、現在も芸術村などで多くの画家が描き継いでいる。